

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部(保健学科)・医学系研究科(保健学専攻)

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>A</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		研究費獲得件数が増加(平成29年度9件→29件)したこと、特に企業や行政との共同研究契約数が大幅に増加(平成29年度5件→22件)したこと、保健学科ボーダレスデザイン医学研究センター(BDC)のオープンラボは100%入居を達成し、学内共同研究として、医学科、人間科学研究科、歯学研究科と共同して高齢者長期縦断疫学研究であるSONIC研究を遂行し、英語論文8報、国際学会4題発表(1題はYIA受賞)などの成果を上げたこと及びBDC棟の経費で「BDCさきがけ研究員」を雇用し、日本生化学会主催の「早石 修記念学助成金」を獲得後、オックスフォード大学に留学させたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		3校の海外大学から31名(29年度20名)の学部生・院生を受け入れ、高齢者医療に関する講義、見学を行い、韓国SIMGU大学訪問プログラムで学部学生25名、教員4名、放射線技師4名を受け入れ、放射線診療の研修、意見交換を行うなど、海外から積極的に受け入れたこと、また、海外の大学・研究機関とのMOU締結は18件(平成29年度15件)と増加し、国際共同研究6件(平成29年度4件)、海外からの招聘研究者も11人(平成29年度3人)と増加して、国際化を着実に進めていることが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

## 【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p><b>【評価コメント(評定に至った理由)】</b>          常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入件数について、目標値を下回ったものの実績を伸ばしていることが認められる。          また、常勤教員基礎データ入力率について、前年度から向上させるとともに高い水準を維持していることが評価できる。</p>
--